

所管調査報告

総務文教常任委員会

日にち：7月30日(水)

調査先：太宰府消防署、太宰府史跡水辺公園、体育センター

筑紫野太宰府消防本部は、消防吏員について、充足率が約74%と低く厳しい状況です。一方、災害出動は増加傾向にもかかわらず、設備老朽化や、消防団員不足も重なり、地域防災力の維持が課題となっています。今後は、計画的な設備更新や人材確保を進め、市民の安心・安全を支える体制強化が急務となっています。

太宰府史跡水辺公園は、屋内外プールを備え、年間利用者は12万人と増加傾向にあります。市民プールとして親しまれ、市民の健康増進に寄与している一方で、利用者からは機材更新やロッカー改修の要望が多く、老朽化や人員確保に加え、運営コストへの対応が必要となっています。

体育センターは昭和52年に設置され、地域住民の健康増進を目的に活用されています。現在は文化スポーツ振興財団が管理し、近隣学校や住民に利用され、年間4万5千人が利用される一方、築48年で老朽化が進み、特に空調未整備の中での夏季熱中症対策が大きな課題です。



太宰府消防署の調査の様子

環境厚生常任委員会

日にち：7月14日(月)

調査先：星ヶ丘保育園、牛島産婦人科医院(産後ケア事業)、
ぎんももひろば(子どもの居場所づくり事業)、人権センター(南隣保館・南児童館)

星ヶ丘保育園の新園舎は円形型の吹き抜けのある立派な施設に建て替えられていました。吹き抜けとなっているため、雨天時等の対策はどうされるか尋ねたところ、ドームのような屋根を付ける計画があるとのことでした。

牛島産婦人科医院では、産後ケア事業について視察を行いました。本市が発行する「産後ケア事業利用パスポート」により7回のケア(サポート)が受けられることなどについて、市民への周知方法を工夫された方がいいのではと感じました。

ぎんももひろばでは、子どもたちに対し安心して過ごせる居場所の提供のほか学習の支援や、生活習慣の助言もなされていました。今後は、学校長などにも情報の共有を行い、このような施設を充実させていく必要があると感じました。

人権センターでは、建物の老朽化を確認しました。今後は建物の耐震化が必要との意見もありました。



星ヶ丘保育園の調査の様子

建設経済常任委員会

日にち：6月26日(木)

調査先：原口No.1池改修事業(太宰府市大字大佐野)、御笠川浄化センター(福岡市博多区那珂)

原口No.1池では令和6年度から令和8年度にかけて大規模な改修が進められています。所管調査時は水を抜いた状態で、池の底から施工状況を確認しました。改修によって、水量の調整機能を強化することで、池の決壊を防ぎ、あわせて農地・住宅地の保全を図っています。

御笠川浄化センターは、御笠川流域6自治体の汚水を処理する、市民生活に欠かせない非常に重要なインフラ施設です。土地の傾斜を巧みに利用し、微生物で汚れを分解、汚泥は再燃料化して環境保全にも努めています。

水をコントロールする社会インフラを長くきれいに使い続けることの重要性は広く認識されるようになってきました。

私たち一人ひとりが、ため池、家庭の台所、道路わきの側溝など、水環境を常にきれいに保つこと。それが社会のみんなの役に立っています。



御笠川浄化センターの調査の様子